

# 探究

liberalarts@asahi.com

水曜掲載



## 星の林に

ピーター・マクミランの  
詩歌翻遊

からころも着つたなれにし妻しあれば  
はるばるきぬる旅をしぞ思ふ

(『伊勢物語』9段 在原業平)

In these familiar lovely robes I'm  
Reminded of the beloved wife  
I have left behind, stretching far—  
Sadness, the hem of journeys.

歌の各句の冒頭をつなげると「かきつばた」  
となる折句の技法をどうすれば  
英訳できるか。四苦八苦した末にI-R-I-S  
(iris=かきつばた)を行頭に置けたとき  
はうれしかった。

【現代語訳】〈着なれた衣の  
よになれ親しんだ妻をおいて  
きているので、はるか遠くに来  
てしまったこの旅を思うよ〉  
『伊勢物語』9段には、都を  
離れ、かきつばたの咲く八橋の  
地にたどり着いた業平の姿がも  
の悲しく描かれている。『伊勢  
物語』といったらこれ、という  
ほどに有名な場面だ。  
彼の友が「かきつばた」の折句  
で、旅が主題の和歌を作ろうと  
提案する。折句とは各句の頭に  
置く文字を読むと言葉が浮かぶ  
修辞である。そこで業平が作っ  
た歌は、レトリックの宝庫だ。

この物語を示している。  
この不要な部分をそぎ落とす  
て洗練させ、連想を大いに働か  
せる力こそ、能から茶の湯に至  
るまで、全ての日本の伝統文化  
の要である。このことに気づい  
たときの喜びと驚きは、私の美  
意識を革命的に変えた。  
毎年、私は表参道の根津美術  
館に行く。「燕子花図」を見て  
庭のかきつばたを眺め、『伊勢  
物語』を思い出す。この重層的  
な連想の美に出会い直す。それ  
はきわめて豊かな美的経験であ  
り、日本の伝統文化の美しさへ  
の、そしてこの国に暮らすよう  
になったことへの、深い感謝を  
かきたてるのだ。  
(詩人、翻訳家)

### 連想する力、日本の伝統文化

## 明日への Lesson

将棋棋士

羽生善治さん

×

朝日新聞DIALOG  
http://www.asahi.com/dialog/  
2030年の未来を考える若者たちのコミュニティー

大澤 AIの世界では時間がかかるとされていたものが、すぐに実現することがある。1996年の棋士へのアンケートで、羽生さんは2015年に将棋ソフトに人間が敗れると予想しました。  
羽生 ほぼ当たったのは偶然ですが、専門家から計算の速さだけで追い抜かれるとは聞いていました。将棋ソフトの進歩は右肩上がりじゃなく、停滞期があつて突然伸びる。科学技術の進歩は止まることはないで、遅かれ早かれ実現するものは予想できます。進歩を早めるのに大切なのは情報を共有すること。将棋でも新手を出し惜しみせずにオープンにした方がはるかに先に進めます。  
大澤 AIの知性はいずれ、人を超えるかもしれません。羽生さんはどこまで見越して、AIに関心を持

30年余にわたり将棋界のトップを走る羽生善治九段(48)は、人工知能(AI)の驚異的な発展に日々向き合ってきた。ここ数年で、AIと競い合う側から活用する側に変化を遂げた将棋界の第一人者は、科学技術の発展と人間社会の関係はどう見ているのか。ドラえもんをつくるのが夢のAI研究者の大澤正彦さん(26)、遺伝子解析の会社を起業した高橋祥子さん(31)と語り合った。

## 技術発展「人の思い」加味してこそ

はぶ・よしはる 1970年、埼玉県所沢市生まれ。85年、15歳でプロ四段、96年に史上初の七冠独占。2017年に永世竜王の資格を獲得し「永世七冠」。18年、将棋界初の国民栄誉賞を受賞した。タイトル獲得は名人9期など、通算99期。約2年前から将棋ソフトを研究に採り入れた。

たかはし・しょうこ 1988年、神戸市生まれ。東京大院在学中の2013年に日本初の個人向け大規模遺伝子解析サービスを提供する「ジーンクエスト」を起業。遺伝子から疾患リスクなどを調べ、約300項目以上の情報を提供する。

おおさわ・まさひこ 1993年、福岡県八女市生まれ。慶応大の学部生だった2014年、「全脳アーキテクチャ若手の会」を創設。17年には「認知科学若手の会」を設立し、代表を務める。慶応大院博士課程に在学中。



将棋の羽生善治九段(中央)と高橋祥子さん(左)、大澤正彦さん=西田裕樹撮影

羽生 新しいものへのアレルギーや抵抗感は当然、ありますね。これまでは哲学論争でしたが、具体的なルールや範囲を決めないといけない時期にきている。技術の進化の速さに対して、抑制的な「枠組み」を短い時間で作れるかどうかは、大きな挑戦という感じもします。  
大澤 ゲノム問題は倫理問題の先輩を見ているよう。AIもそういう壁に当たると見えていますか。  
羽生 分かりやすい指標が自動運転ですね。自動運転により交通事故

っているのですか。  
羽生 将棋、チェス、囲碁でAIが強くなったのは、画像技術が進んだところが大きい。画像を処理して最適解を提示しているだけで、将棋や囲碁という分類はない。だって、画像だから(笑)。人間の定義でジャンルやカテゴリーを分けていたのが正しかったかどうかも突きつづけています。  
ただ、これらはサイバー空間での話。物理法則に縛られ、社会的制約を受けるリアルな世界とは別だと思っっている。人間にとって心地よく受け入れられるようにするために、AIに感情を採り入れたものをつくらなければならないと思う。  
大澤 僕は小学生のときから、ドラえもんをつくりたかった。まさに心地よさを与えてくれる人工物を実現したい、という欲求があります。今はコンピューター内で完結する研究が進んでいますが、現実社会に踏み込む技術ができれば、AIもブレイクスルーすると思います。  
高橋 ゲノム解析の会社を経営していますが、倫理的な問題や人間の感情の問題があり、広げていくのが難しい点もあります。技術の使い方が次第で難病の治療を進めたりできるのに、「知らないから怖い」と言われたりして先へ進まない。

高橋 AIやゲノム編集の技術が、指数関数的に急速に進歩していく社会で、10年後にどんなストーリーを描けばいいと考えていますか。  
羽生 現状の課題の中には10年後に、解決されているものもあるでしょう。ただ、もっと難しい問題に直面していると思うんです。科学技術が進歩すればするほど、対峙すべき難しい課題が出てくる。それが歴史です。車の運転でもスピードが上がりれば上がるほど、視野が狭くなり全体が見えなくなる。技術の進歩も同様なので、全体が見える状態をいかに、社会に提供し続けるかどうかが大切ですね。(構成・岩田智博)

◇朝日新聞デジタルで詳報します。  
で亡くなる人は劇的に減るが、事故が起こると社会に与えるインパクトはとてつもない。論理的に見れば自動運転がいいのは間違いないけども、人の思いを加味しつつ、進めていけるかどうか、かかっていますね。気持ちの話をしましたが、遺伝子でもその辺りの研究は進んでいます。人間が持つ生まれた先天的なものその人の人生に与える影響って、どのような感じでしょうか。  
高橋 性格は遺伝的要因と、いろんな要素が混ざって形成されています。IQに遺伝的要因は関わっていませんが、通常の「頭がいい」という状態は、記憶力や連想力、想像力など様々な要素が絡まっています。全てが高い人はいないので、決して遺伝子で人生が決まっているわけではありませぬ。遺伝子の研究が進むと、その人が持つ「可能性」と、「余白」がより分かるようになり、自身の人生の方向を認識できるようになるかな、と思っています。  
羽生 思い込みも結構、大事ですよ。遺伝子検査の結果が出て、その2割増しでできる!と思えば目標が本当に実現してしまうとか。

第1週 メッセージ

第2週 クエストション

第3週 キャンパス

第4週 セッション